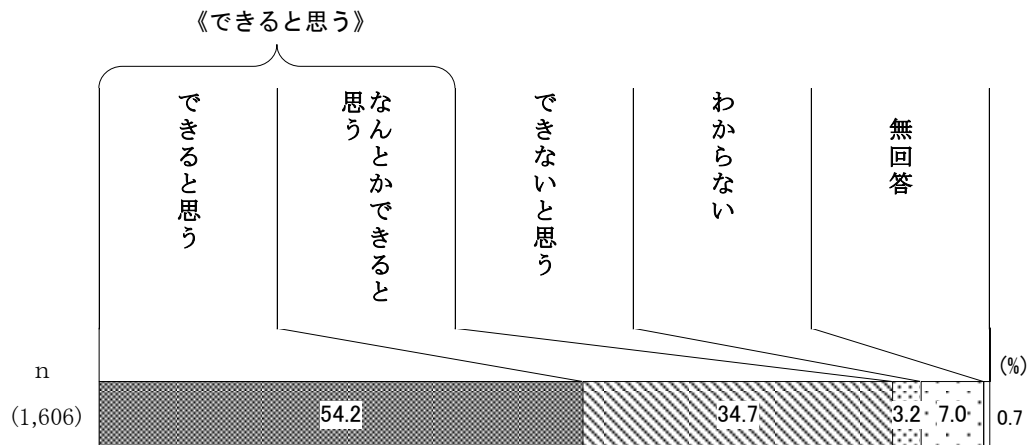


## 4. 災害への備えについて

### (1) いざというときの119番通報の可否

問11 あなたは、いざというときに119番通報ができると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

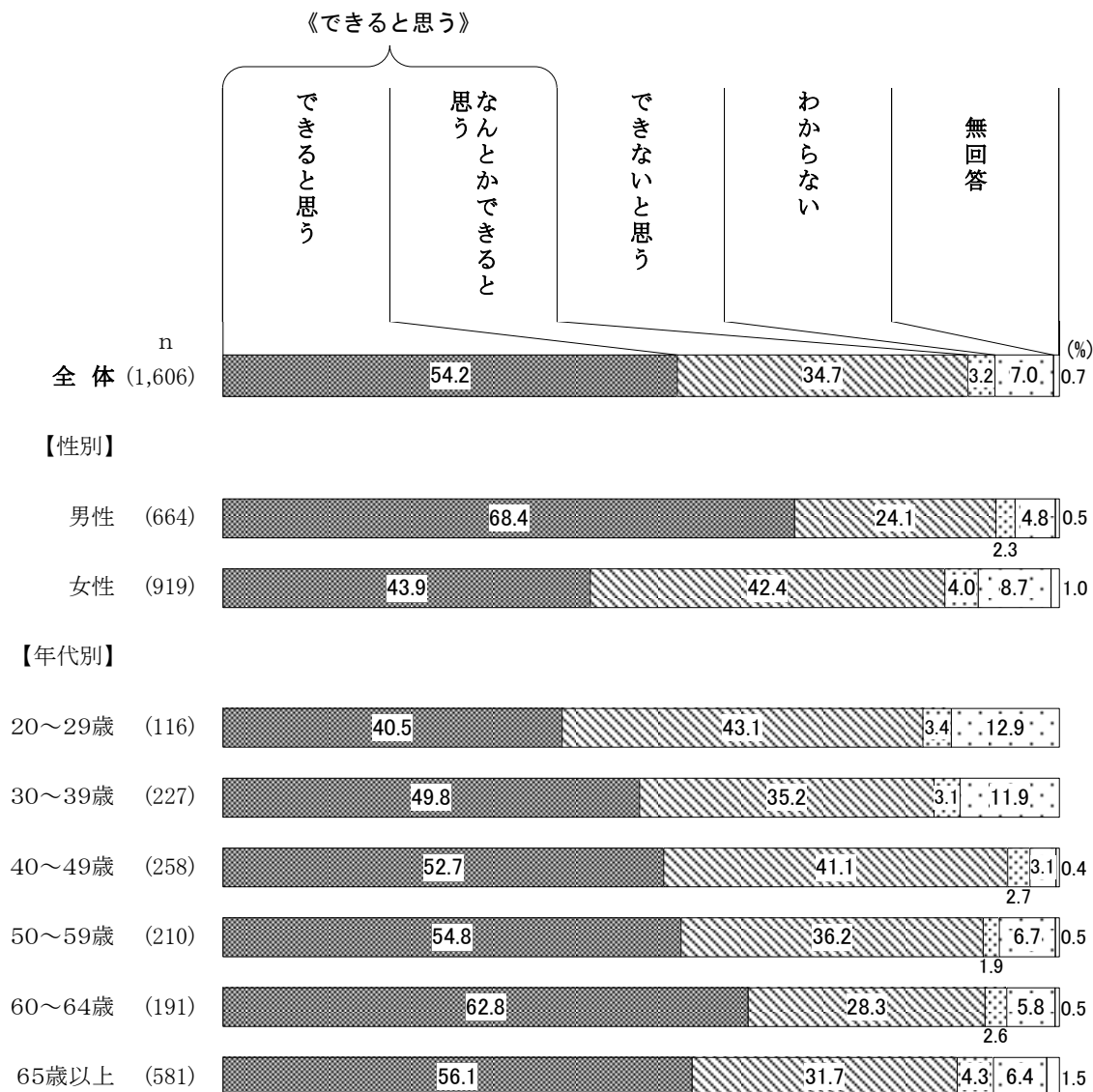


いざというときに119番通報を「できると思う」は54.2%と半数を超え、これに「なんとかできると思う」(34.7%)を合わせた《できると思う》は88.9%を占めている。

性別にみると、《できると思う》は男性で92.5%、女性で86.3%となっている。

年代別にみると、《できると思う》はいずれも8割を超え、特に40～49歳、50～59歳、60～64歳で9割台となっている。

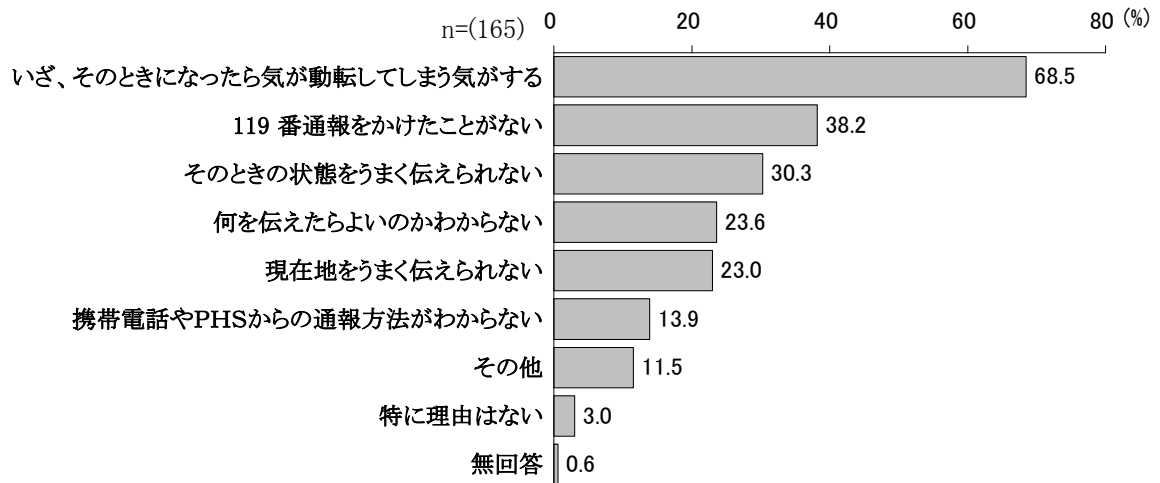
### 性別／年代別



## (2) 119番通報ができない理由

【問11で「できないと思う」または「わからない」と答えた方におたずねします。】

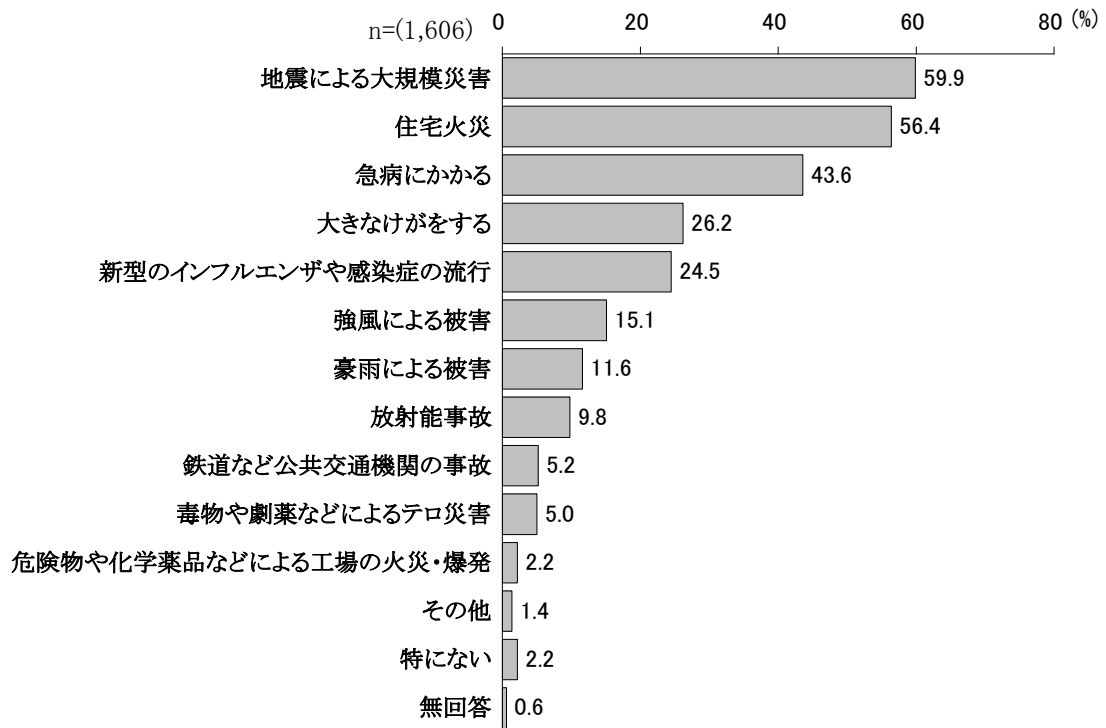
問11-1 「できない」または「わからない」と思う理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)



119番通報ができない、または通報できるかどうかわからない人の理由としては、「いざ、そのときになったら気が動転してしまう気がする」が68.5%と特に多く、以下、「119番通報をかけたことがない」(38.2%)、「そのときの状態をうまく伝えられない」(30.3%)が3割台、「何を伝えたらよいかわからない」(23.6%)、「現在地をうまく伝えられない」(23.0%)が2割台で続いている。

### (3) 不安に思う事故や災害

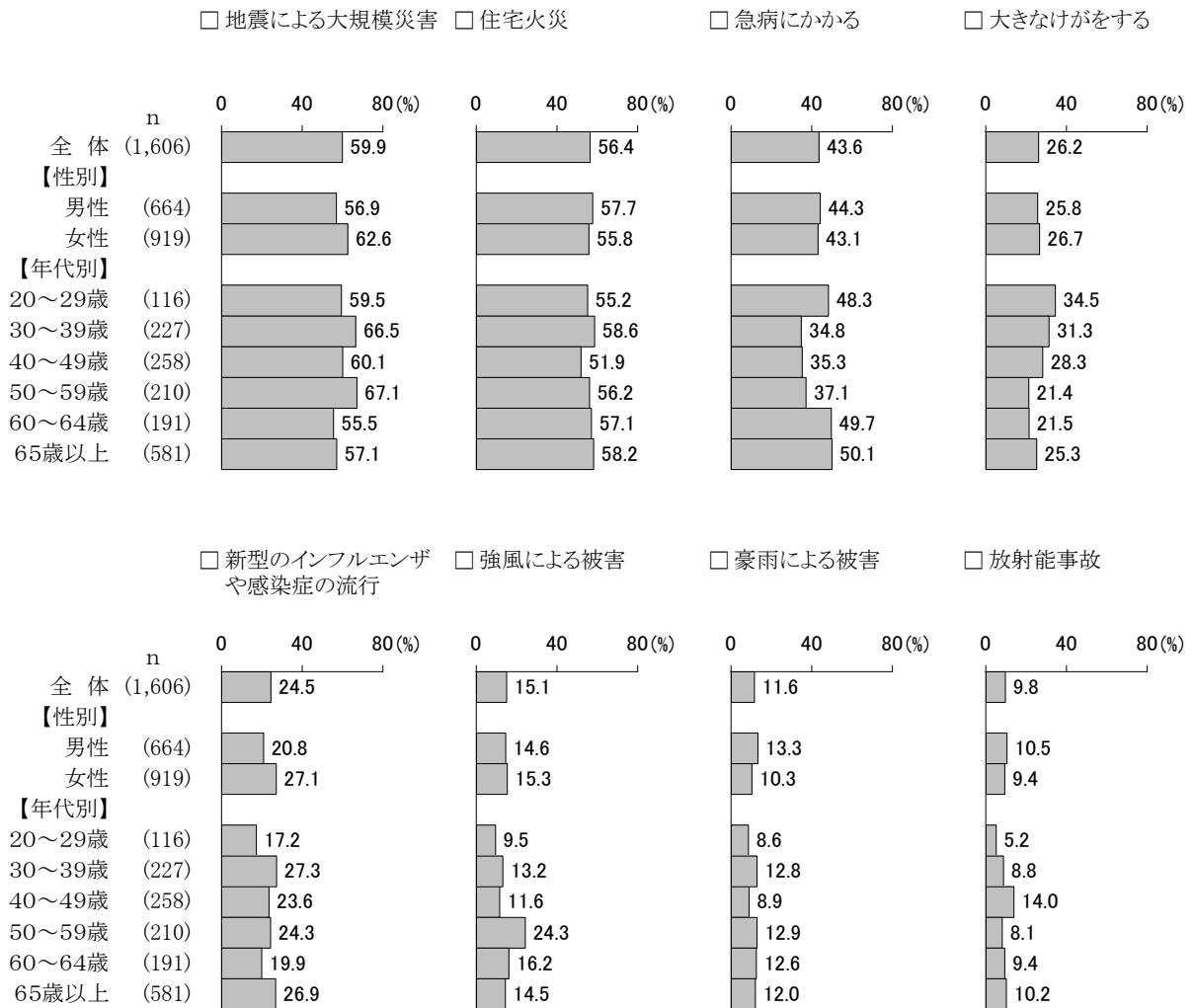
問12 あなたが普段の生活において、不安に思うことのある事故や災害は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)



普段の生活において、不安に思うことのある事故や災害は、「地震による大規模災害」(59.9%)と「住宅火災」(56.4%)の2項目が5割台で多く、これに「急病にかかる」が43.6%で続いている。

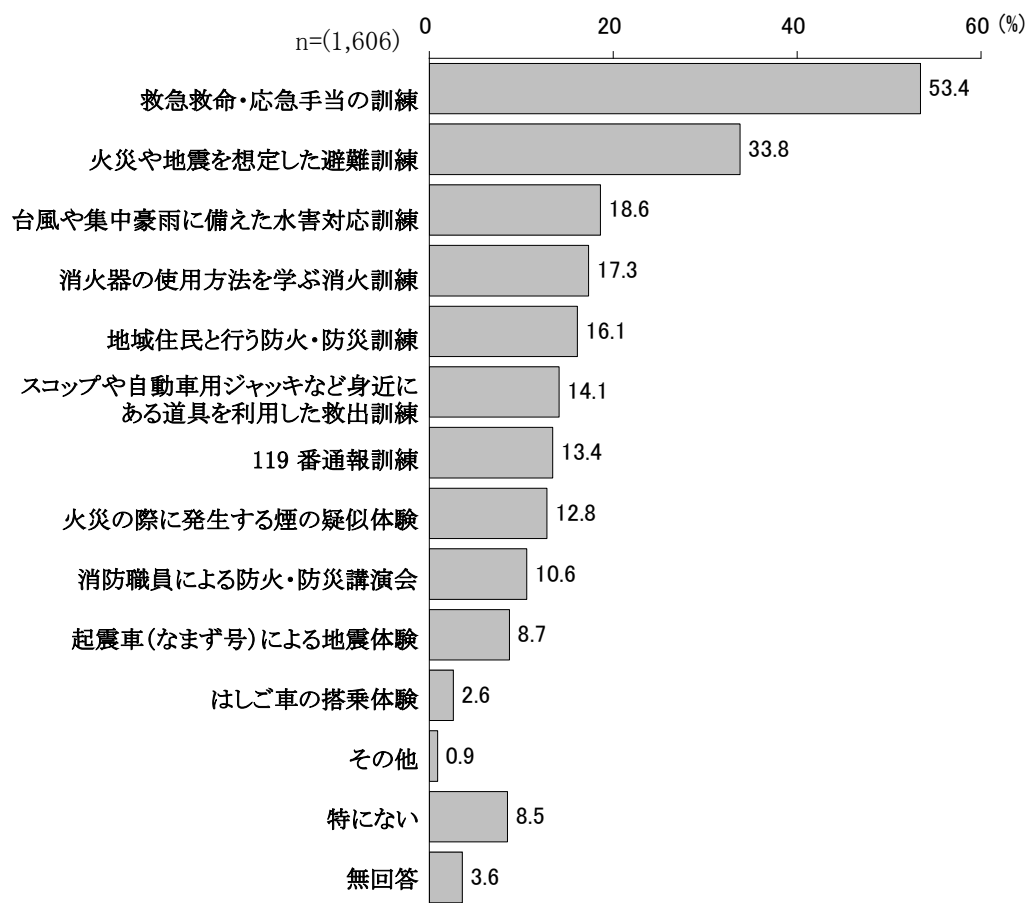
性別や年代別にみると、いずれの層でも「地震による大規模災害」と「住宅火災」が5割から6割台と多く、これに「急病にかかる」が続くという傾向は共通している。この他、20～29歳、30～39歳では「大きなけがをする」が3割台と他の年代より多くなっている。

### 性別／年代別（上位8項目）



#### (4) 参加したい訓練や体験

問13 あなた自身やあなたの周りの方の身に起こり得る万一の事態に備えて、参加しておきたいと思う訓練や体験はどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。  
(○は3つまで)

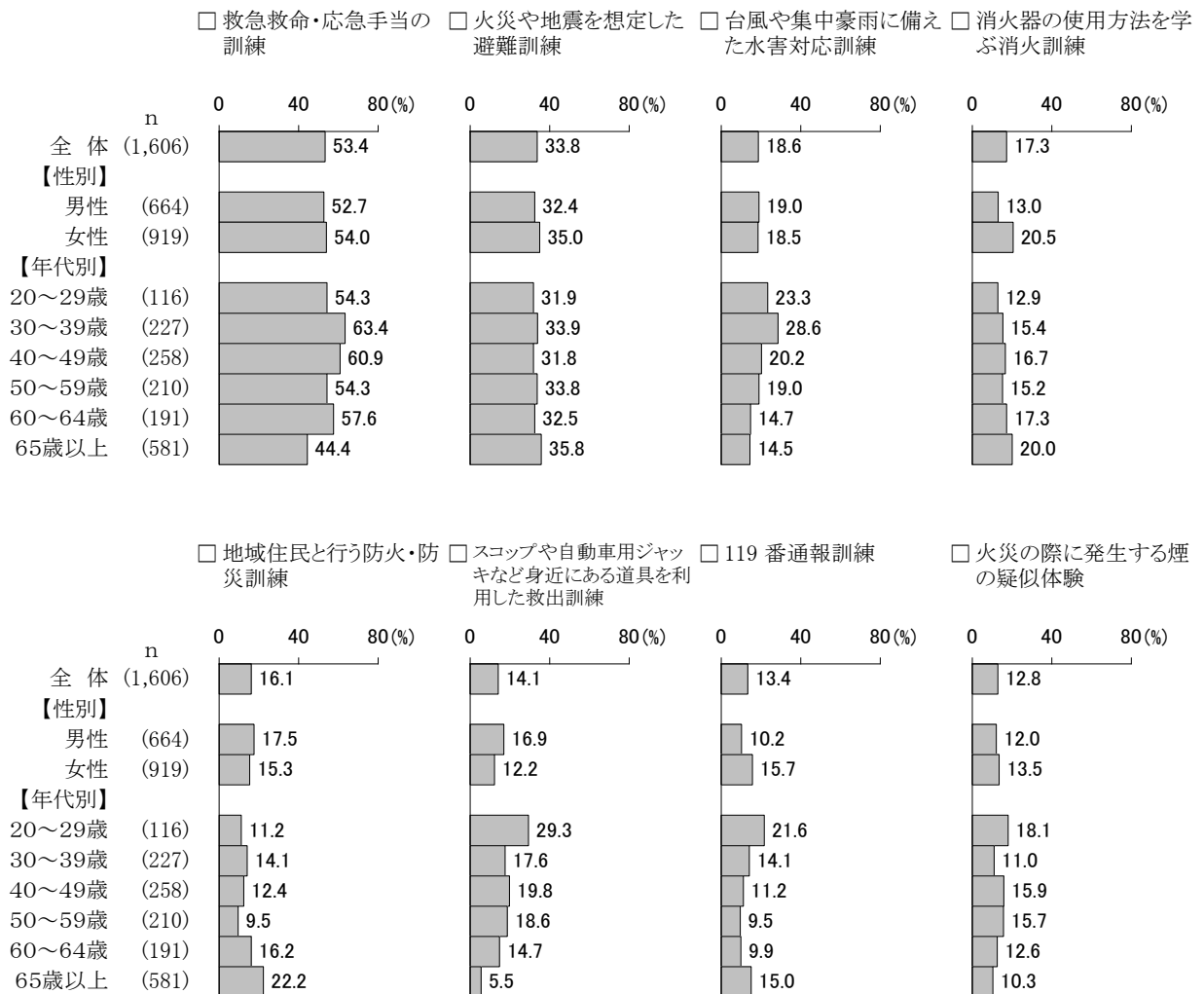


自分自身や周りの方の身に起こり得る万一の事態に備えて、参加しておきたいと思う訓練や体験は、「救急救命・応急手当の訓練」が53.4%で最も多く、「火災や地震を想定した避難訓練」が33.8%でこれに次いでいる。以下、「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」(18.6%)、「消火器の使用方法を学ぶ消火訓練」(17.3%)、「地域住民と行う防火・防災訓練」(16.1%)などが1割台で続いている。

性別にみても上位3項目は違いがみられない。「消火器の使用方法を学ぶ消火訓練」(男性：13.0%、女性：20.5%)は女性でより多くあげられている。

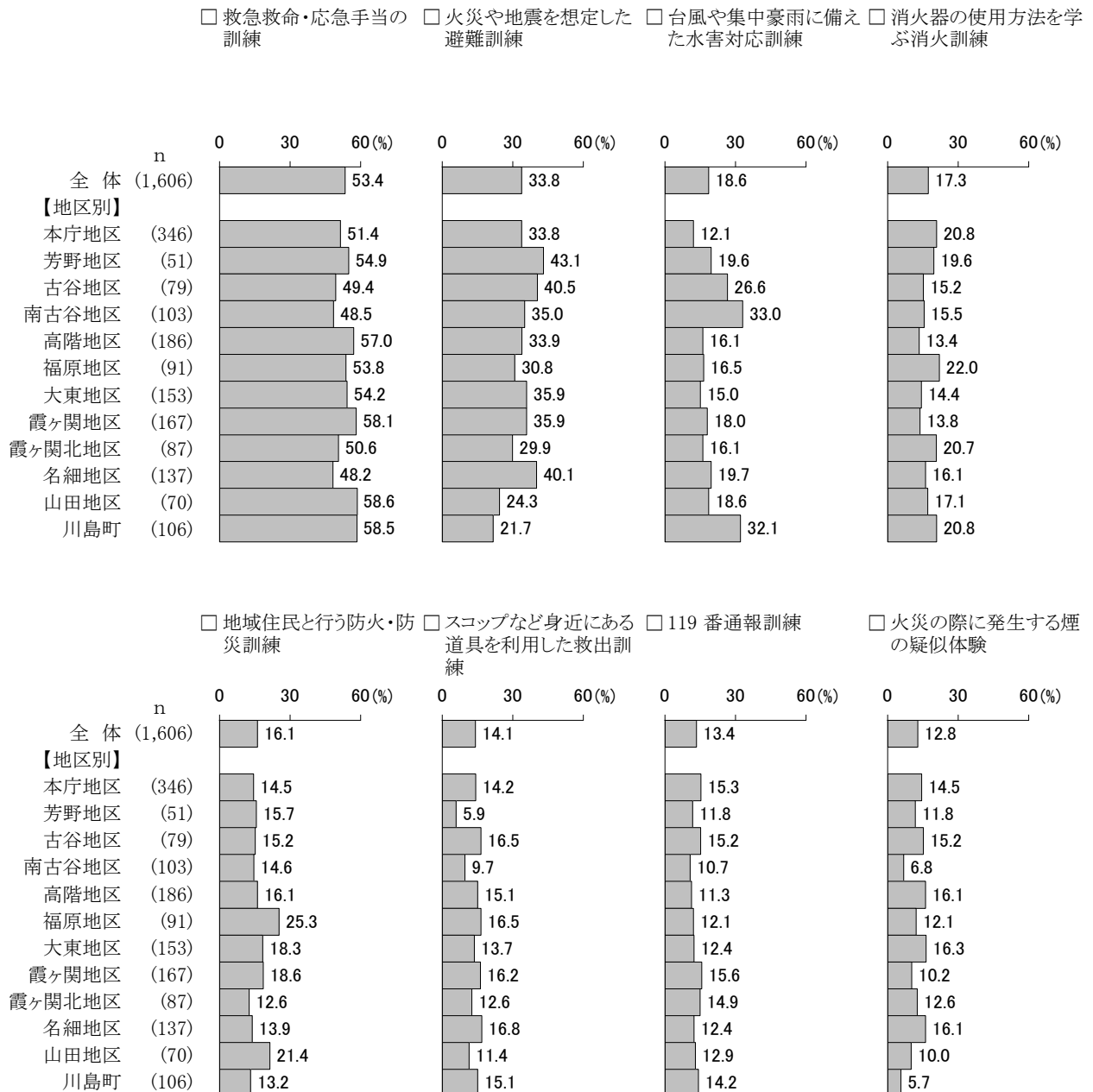
年代別にみても大きな違いはみられないが、「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」は30～39歳で28.6%、「スコップや自動車用ジャッキなど身近にある道具を利用した救出訓練」、「119番通報訓練」は20～29歳で2割台と比較的多くなっている。

### 性別／年代別（上位8項目）



地区別にみると、「救急救命・応急手当の訓練」はいずれの地区でも4割から5割台と多くなっている。多くの地区ではこれに「火災や地震を想定した避難訓練」が続いているが、川島町では「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」が32.1%で続いている。また、南古谷地区、古谷地区でも「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」は比較的多くなっている。この他、「地域住民と行う防火・防災訓練」は福原地区、山田地区で2割台と他の地区より多くなっている。

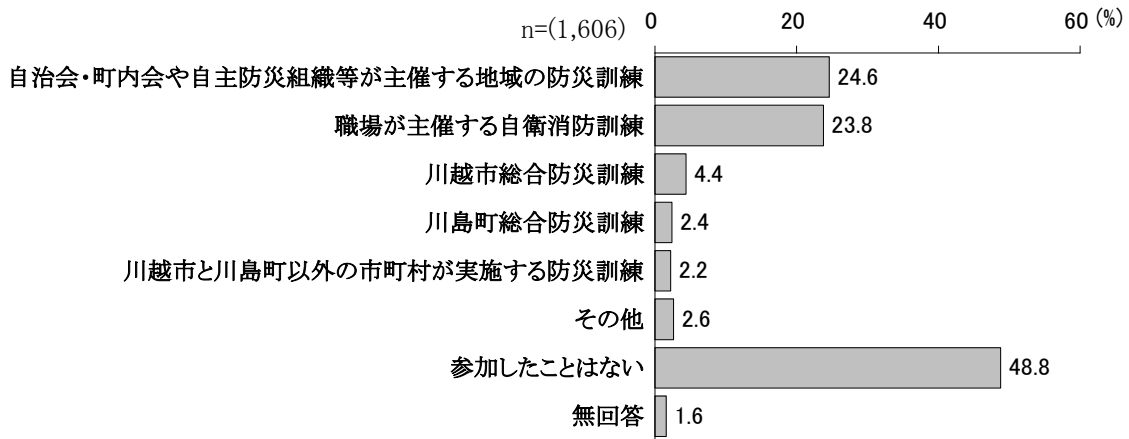
### 地区別（上位8項目）





(5) 参加したことがある防災訓練

問14 あなたが過去5年以内に参加したことがある防災訓練をすべて選んでください。  
(○はあてはまるものすべて)

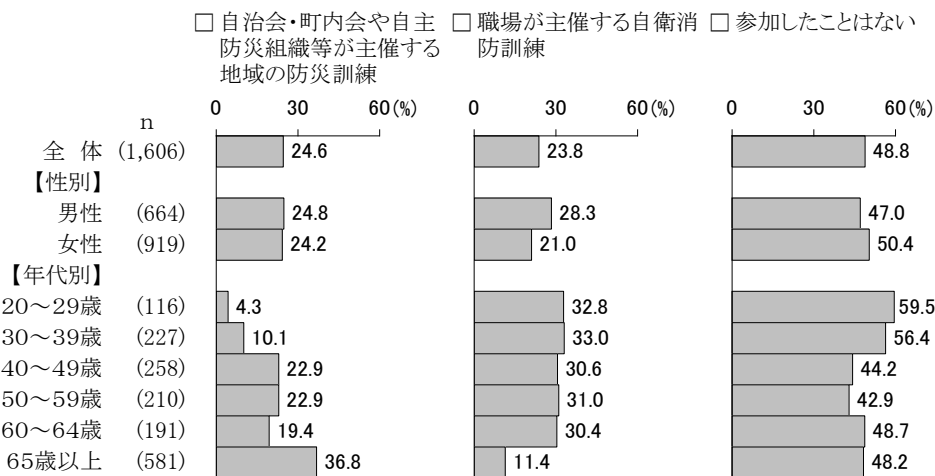


過去5年以内に参加したことがある防災訓練は、「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」(24.6%)と「職場が主催する自衛消防訓練」(23.8%)が2割台となっている。これ以外は小数であり、「参加したことはない」が48.8%となっている。

性別にみると、「職場が主催する自衛消防訓練」は男性(28.3%)が女性(21.0%)を7.3ポイント上回っている。

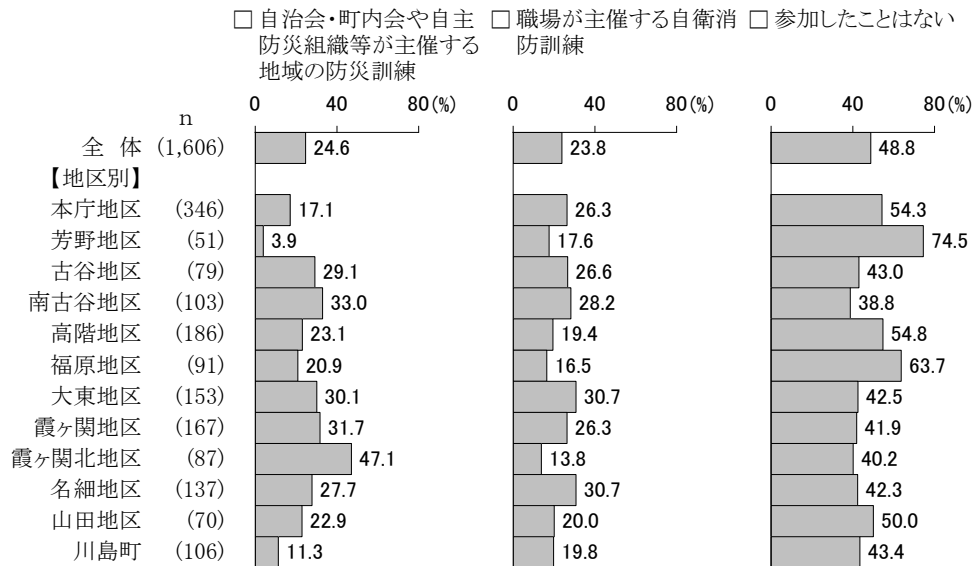
年代別にみると、64歳以下の年代では「職場が主催する自衛消防訓練」がいずれも3割台となっている。一方、65歳以上では「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」が36.8%と多くなっている。また、「参加したことはない」は20~29歳、30~39歳で5割台を占めている。

性別／年代別 (上位2項目+参加したことはない)



地区別にみると、「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」は霞ヶ関北地区では47.1%を占めるが、芳野地区では3.9%、川島町では11.3%と少なく、地区による違いが大きい。また、「参加したことはない」は芳野地区が74.5%、福原地区で63.7%と多く、本庁地区、高階地区、山田地区でも5割台と多くなっている。

### 地区別（上位2項目+参加したことはない）

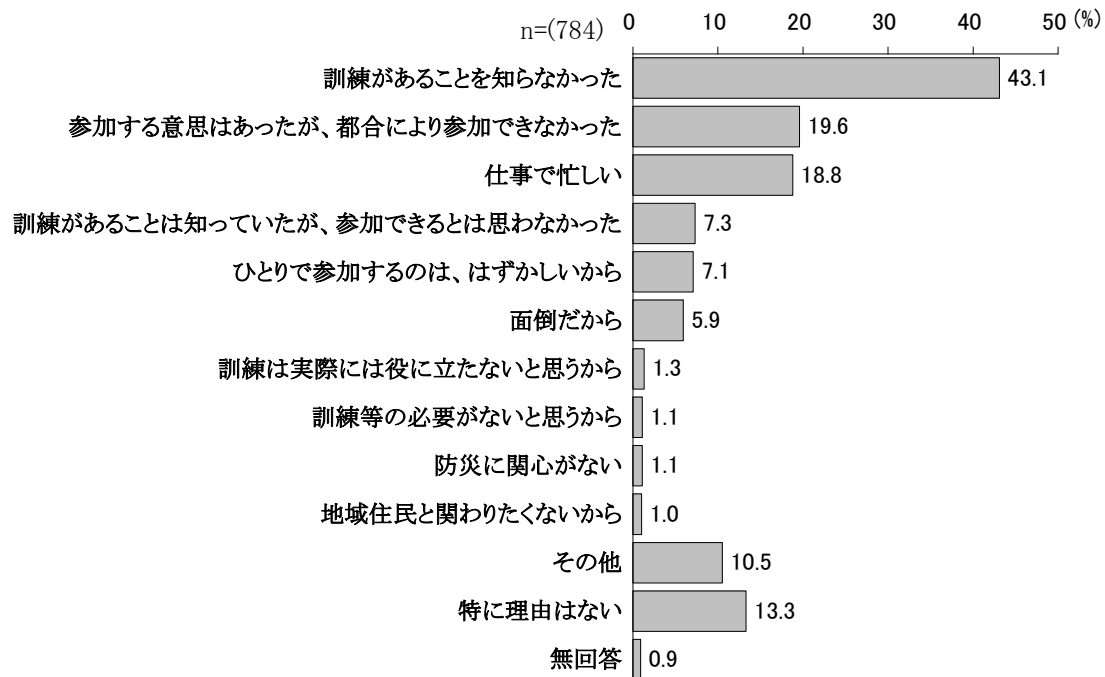


## (6) 防災訓練に参加したことがない理由

【問14で「参加したことはない」と答えた方におたずねします。】

問14-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

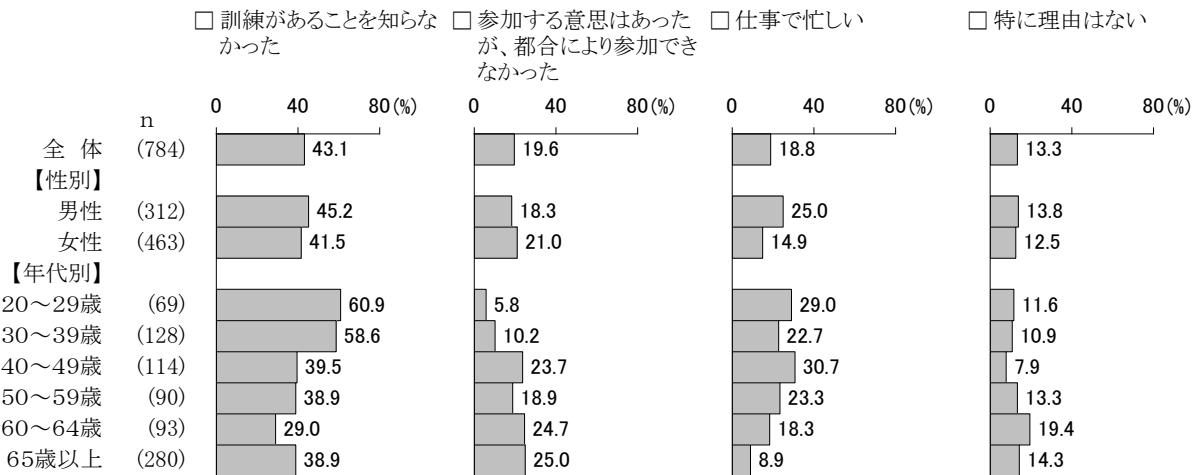
(○は3つまで)



防災訓練に参加したことがない理由としては、「訓練があることを知らなかった」が43.1%で最も多く、以下、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」(19.6%)、「仕事で忙しい」(18.8%)が1割台で続いている。

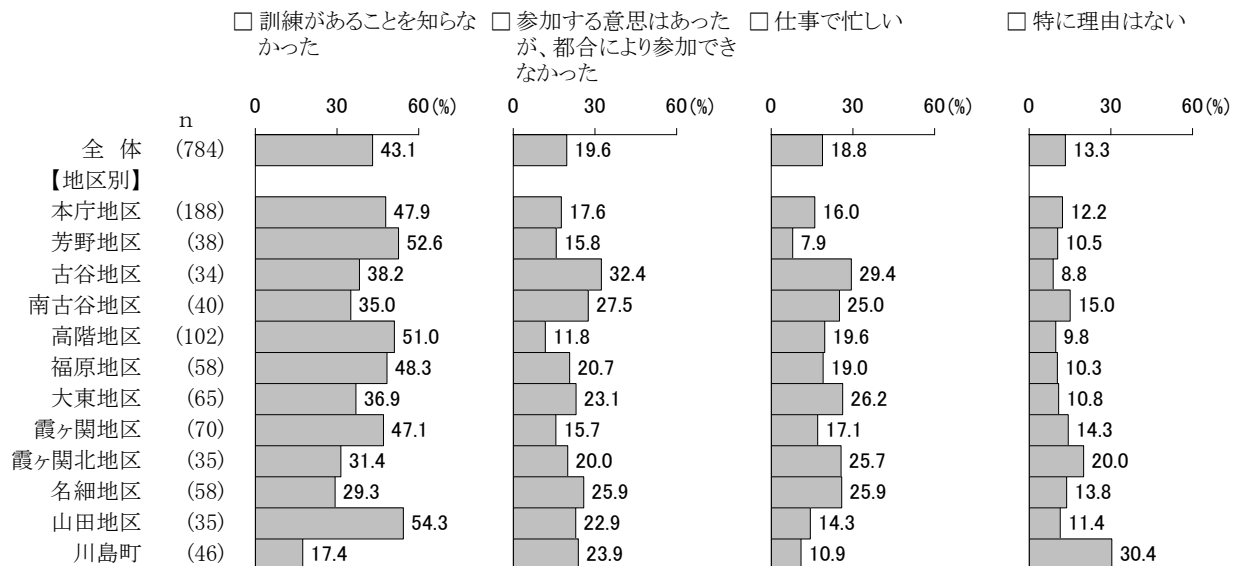
性別にみると、「仕事で忙しい」は男性（25.0%）が女性（14.9%）を10.1ポイント上回っている。  
 年代別にみると、「訓練があることを知らなかった」は20～29歳、30～39歳で6割前後と多くなっている。「仕事で忙しい」は20～29歳、40～49歳で3割前後となっている。

### 性別／年代別 （上位3項目＋特に理由はない）



地区別にみると、参加状況の低かった芳野地区、高階地区、本庁地区、福原地区では「訓練があることを知らなかった」が5割前後と多くなっている。

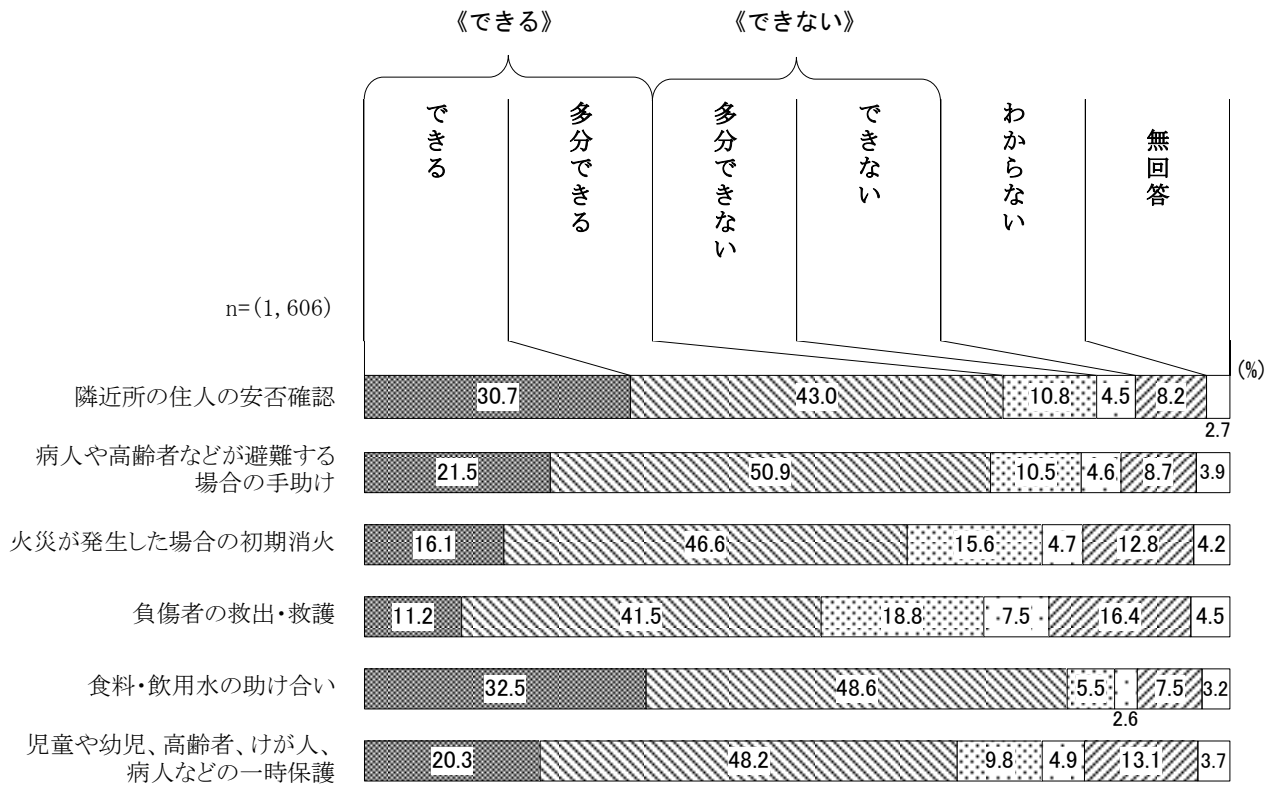
### 地区別 （上位3項目＋特に理由はない）



## (7) 大地震等による被害発生時の助け合いや協力の可否

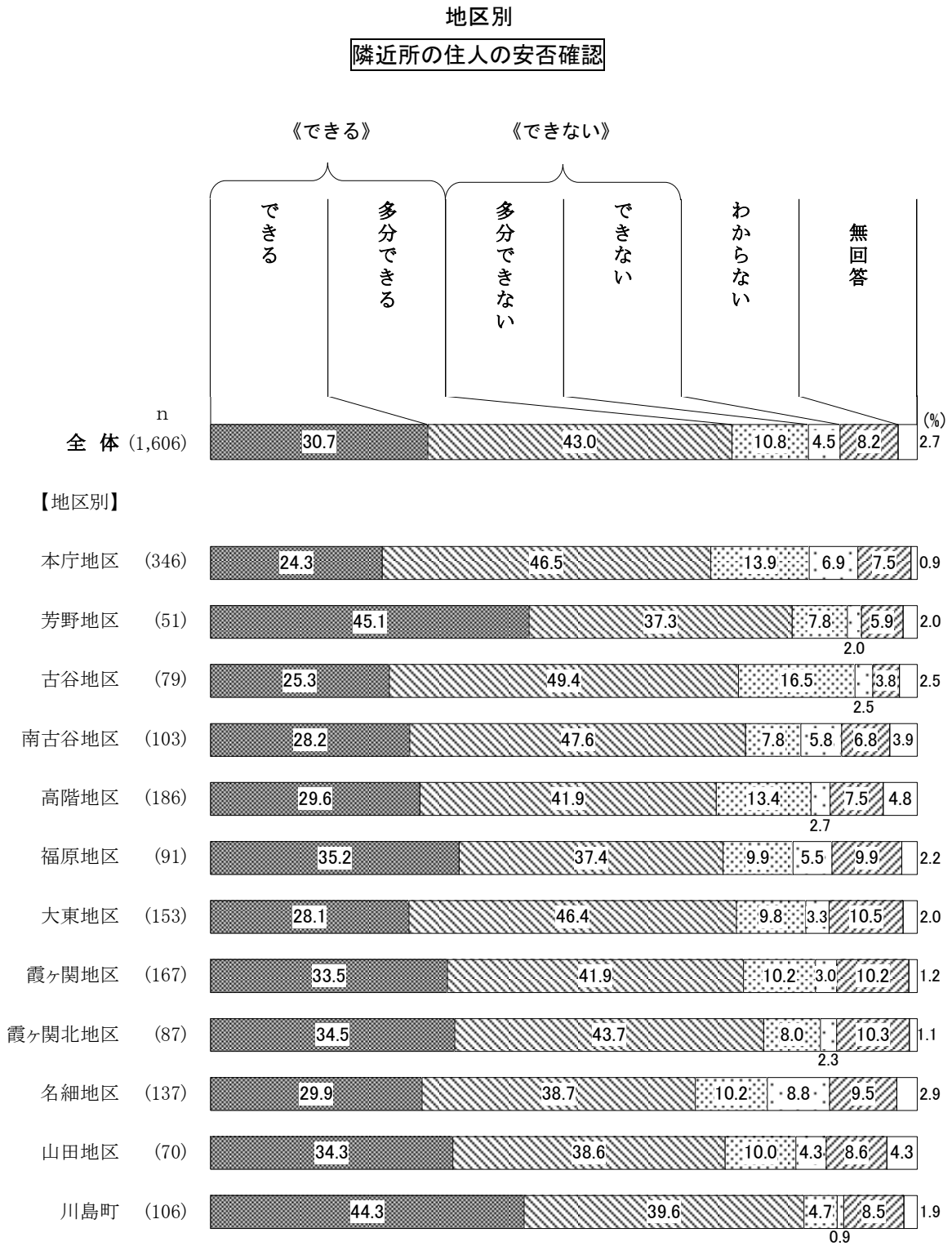
問15 あなたは、大地震などで大きな被害が発生したとき、次の事柄について隣近所の方々と助け合いや協力ができると思いますか。項目ごとに1つずつ選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

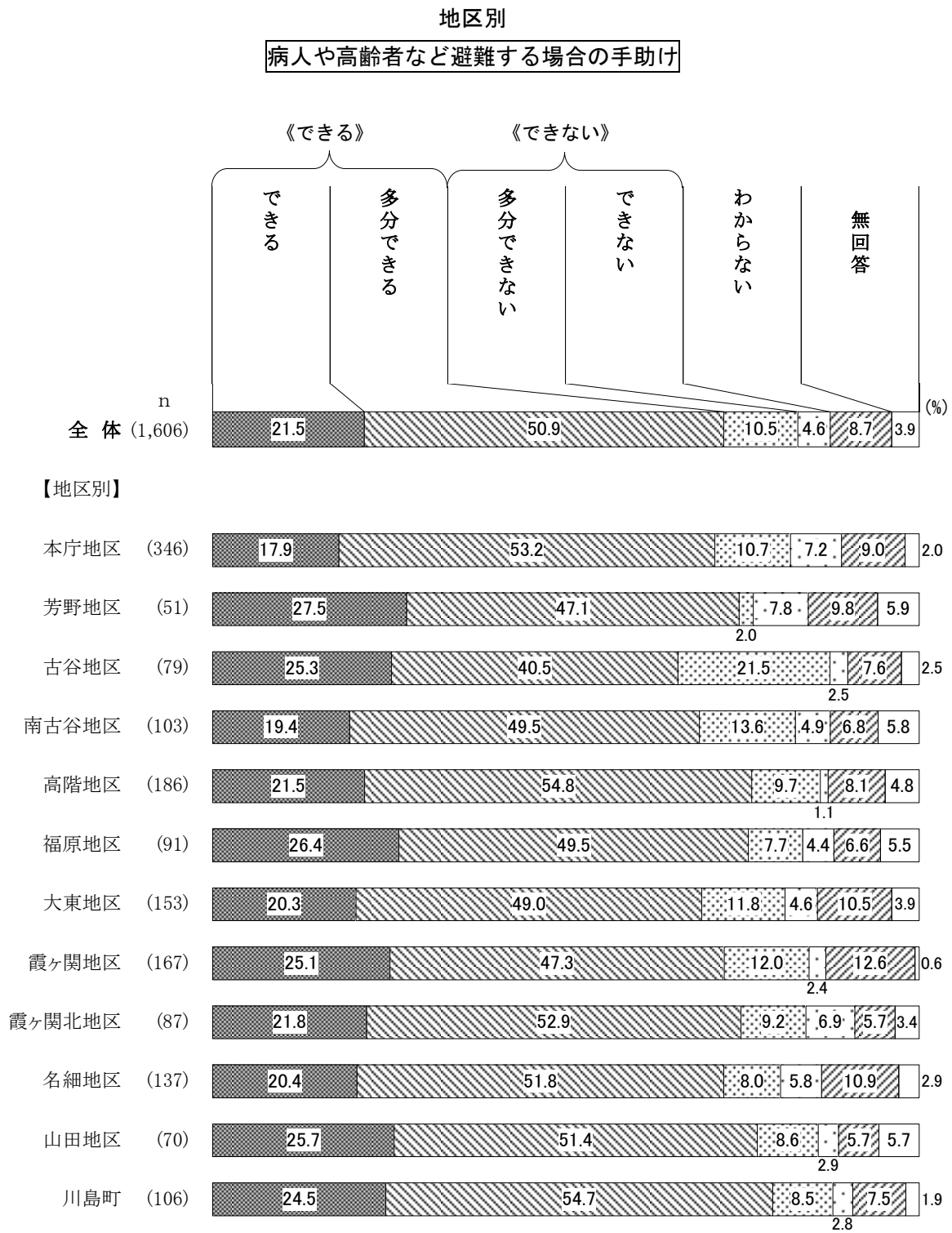


大地震などで大きな災害が発生したとき、隣近所の方々と助け合いや協力ができるかどうか聞いた。「できる」という回答は“食料・飲用水の助け合い”（32.5%）、“隣近所の住人の安否確認”（30.7%）で3割台となっている。また、《できる》（「できる」と「多分できる」の計）では、“食料や飲用水の助けあい”は81.1%、“隣近所の住人の安否確認”（73.7%）や“病人や高齢者などが避難する場合の手助け”（72.4%）では7割台となっている。一方、“火災が発生した場合の初期消火”（62.7%）、“負傷者の救出・救護”（52.7%）では他の項目に比べやや低く、《できない》（「できない」と「多分できない」の計）が2割台となっている。

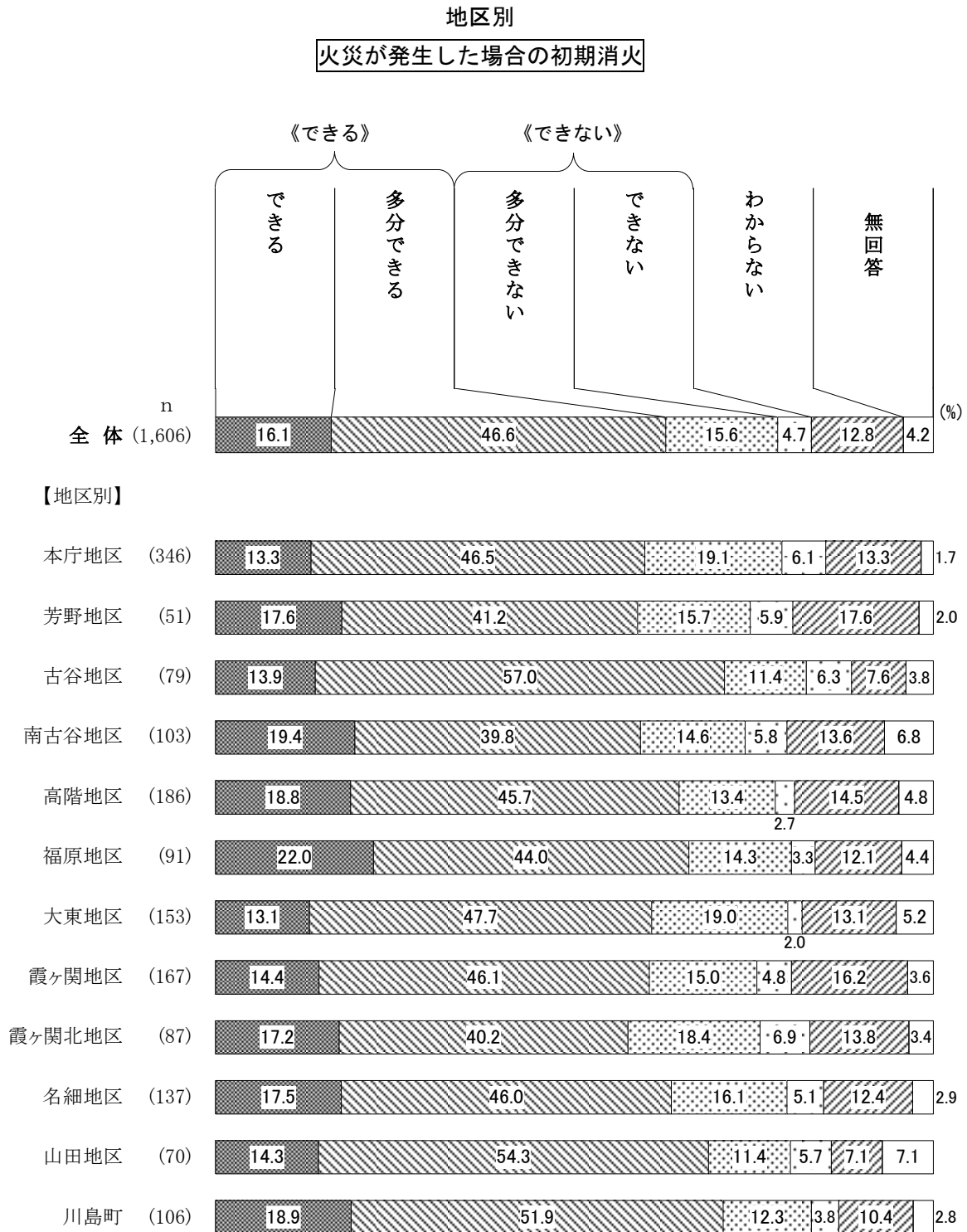
“隣近所の住人の安否確認”を地区別にみると、《できる》は芳野地区（82.4%）、川島町（83.9%）で8割台と多く、他の地域でも7割程度となっている。一方、《できない》は本庁地区（20.8%）と古谷地区（19.0%）で2割前後と比較的多くなっている。



“病人や高齢者など避難する場合の手助け”を地区別にみると、《できる》は多くの地区で7割台を占め、川島町（79.2%）、山田地区（77.1%）など75%を超える地区もみられる。一方、古谷地区は65.8%にとどまり、《できない》が24.0%と他の地区より多くなっている。

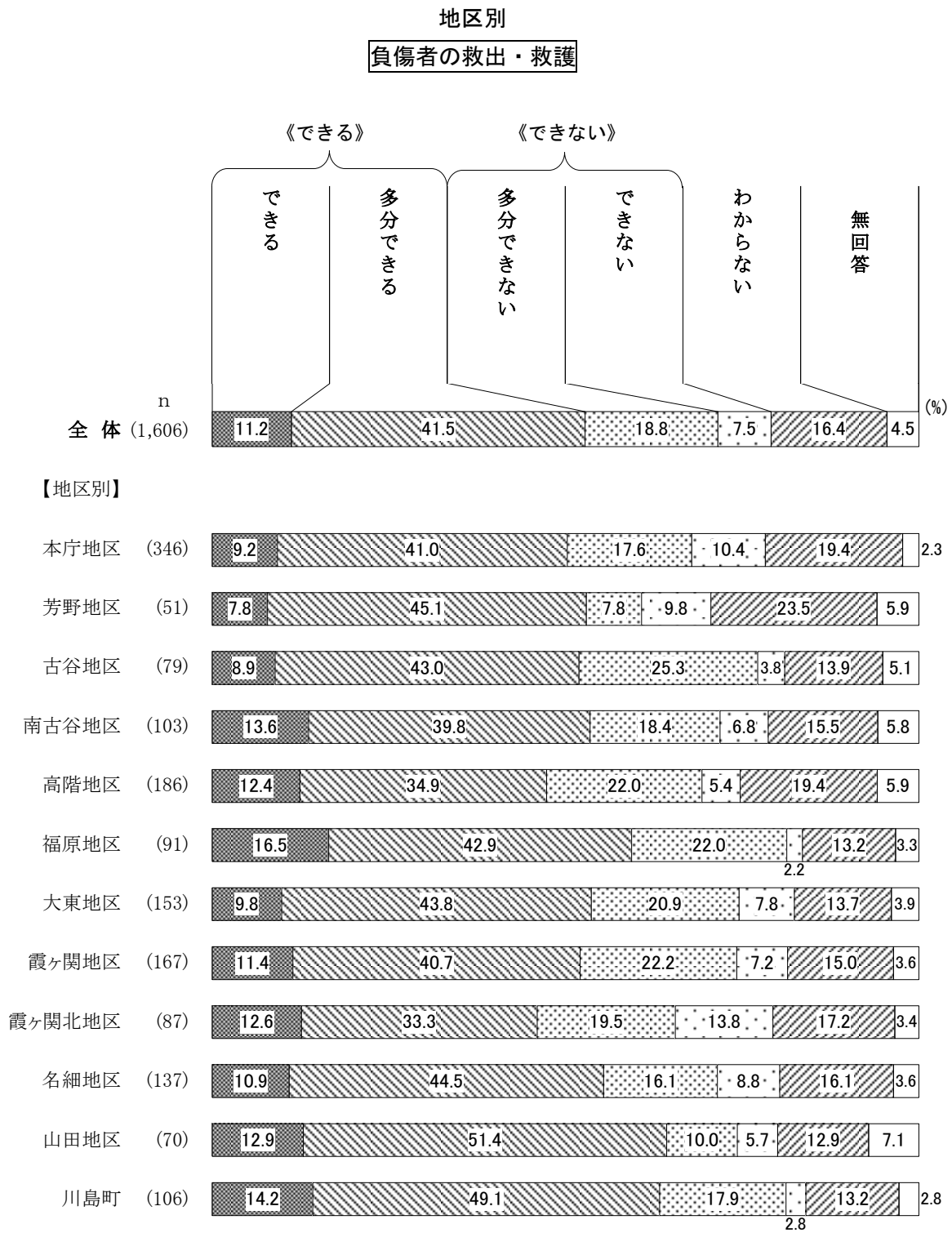


“火災が発生した場合の初期消火”を地区別にみると、《できる》は古谷地区（70.9%）と山田地区（68.6%）、川島町（70.8%）で7割前後と多く、他の地区では6割前後となっている。一方、《できない》は本庁地区（25.2%）と霞ヶ関北地区（25.3%）で2割台半ばと比較的多くなっている。

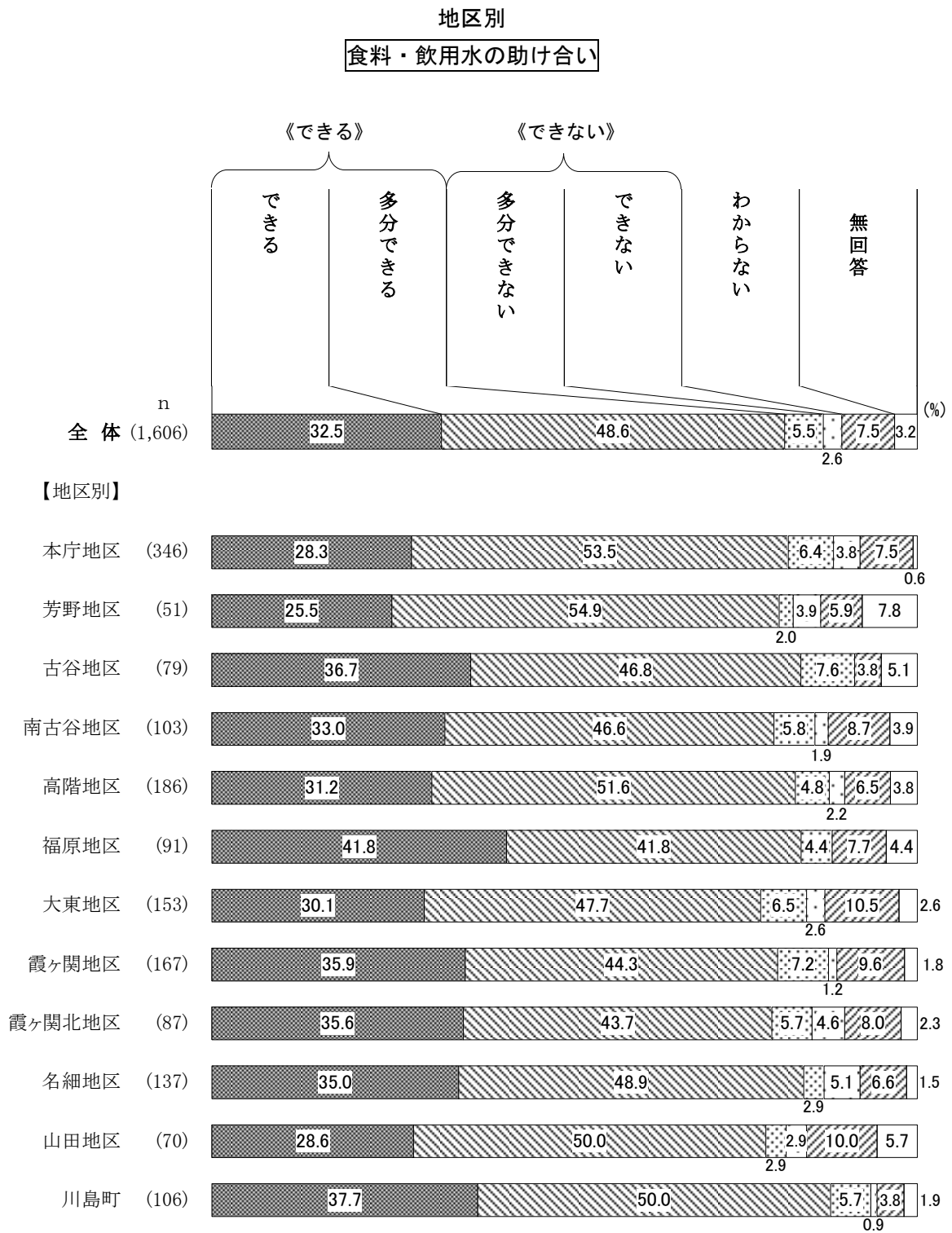




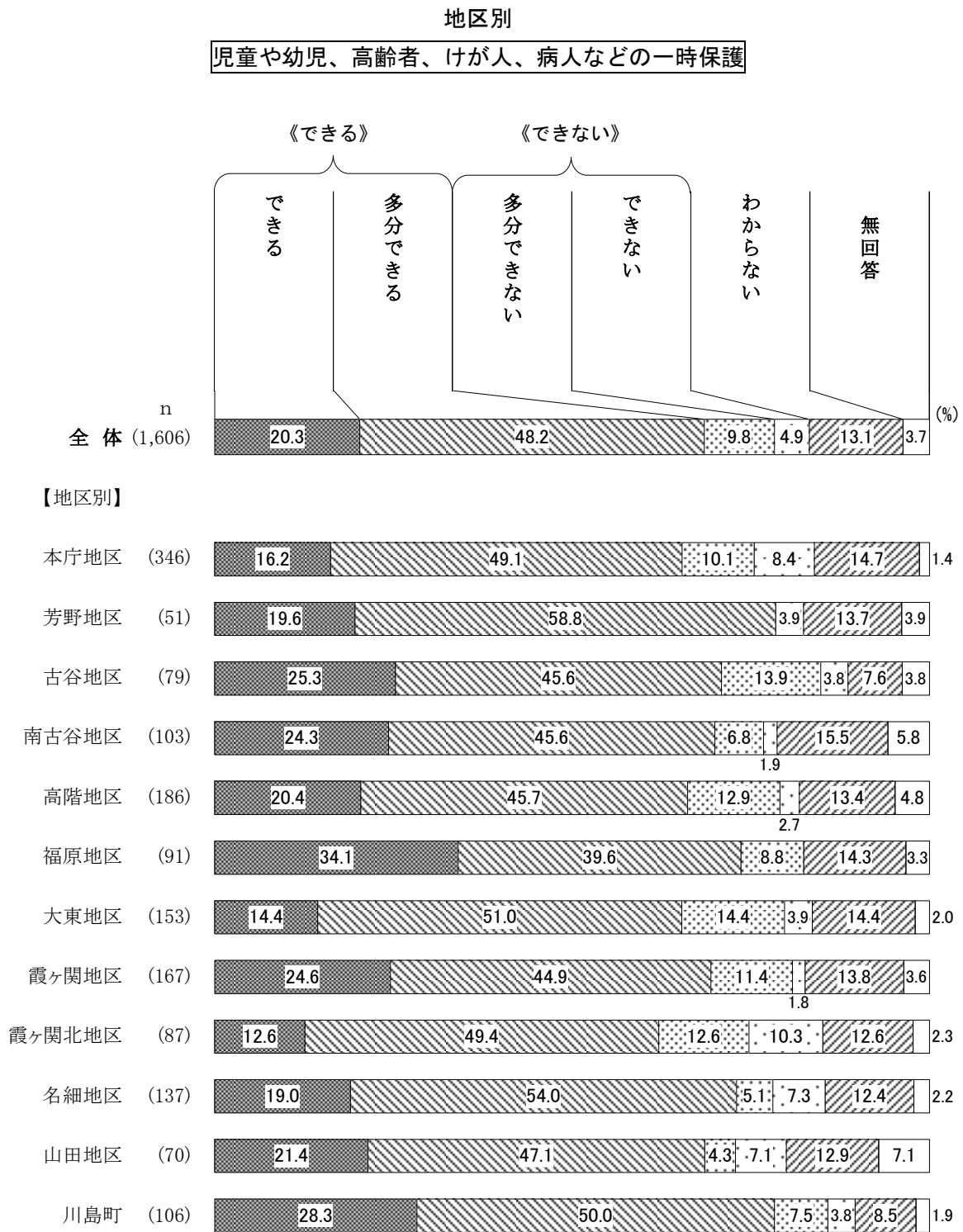
“負傷者の救出・救護”を地区別にみると、《できる》は山田地区（64.3%）と川島町（63.3%）で6割台と多くなっている。他の地区は5割台が多いが、高階地区（47.3%）と霞ヶ関北地区（45.9%）では4割台と半数以下となっている。



“食料・飲用水の助けあい”を地区別にみると、《できる》はいずれの地区でも7割から8割台となっている。特に川島町では87.7%と9割近くに達している。

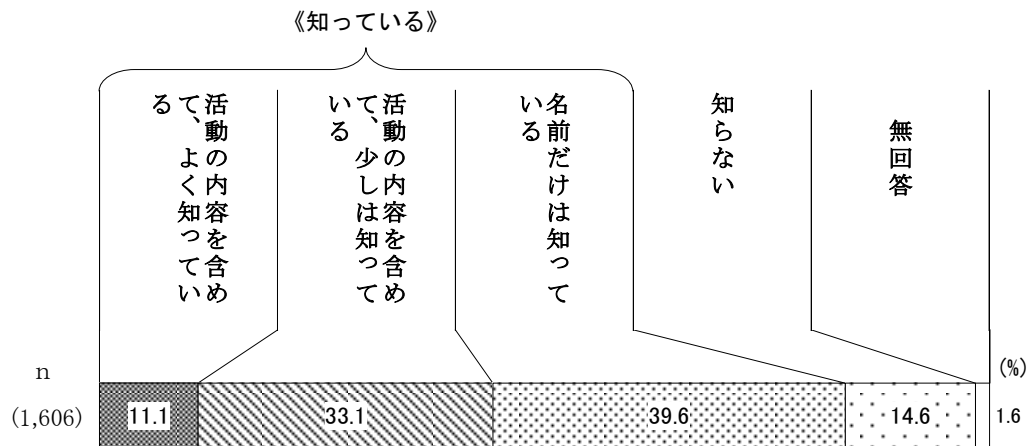


“児童や幼児、高齢者、けが人、病人などの一時保護”を地区別にみると、《できる》は芳野地区(78.4%)、川島町(78.3%)で8割近くと多い。他の地区は7割前後となる地区が多いが、本庁地区(65.3%)、高階地区(66.1%)、大東地区(65.4%)、霞ヶ関北地区(62.0%)では、65%程度となっている。また、霞ヶ関北地区では《できない》が22.9%と他の地区より多くなっている。



## (8) 消防団の認知

問16 あなたは、普段は生業を持ちながらも、自らの地域は自らが守るというボランティア精神に基づき活動する「消防団」を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。  
(○は1つ)

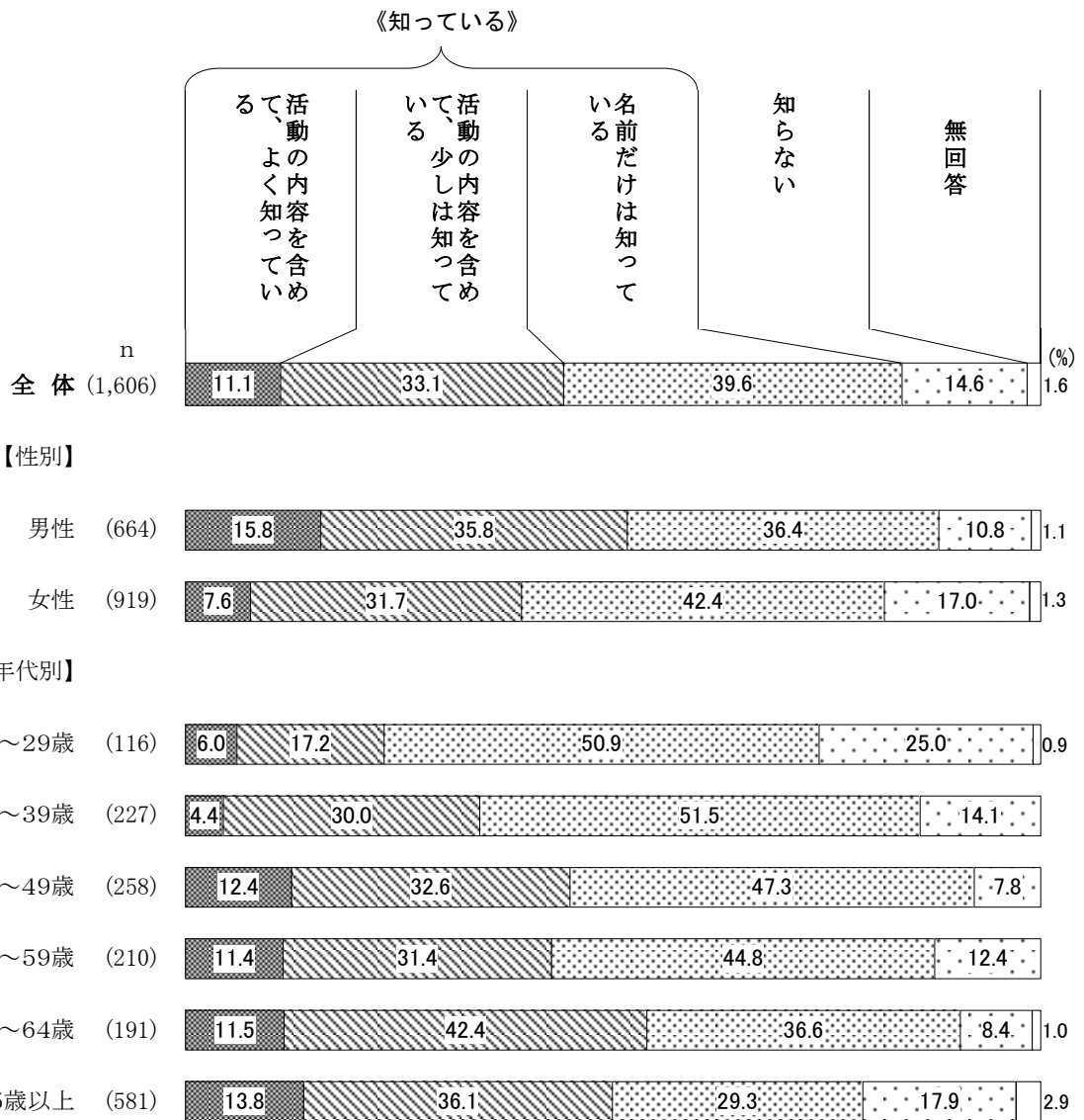


普段は生業を持ち、ボランティア精神に基づき活動する「消防団」の認知について聞いたところ、「活動の内容を含めて、よく知っている」は11.1%にとどまる。「活動の内容を含めて、少しは知っている」は33.1%、「名前だけは知っている」は39.6%となり、これらを合わせた《知っている》では83.8%を占める。

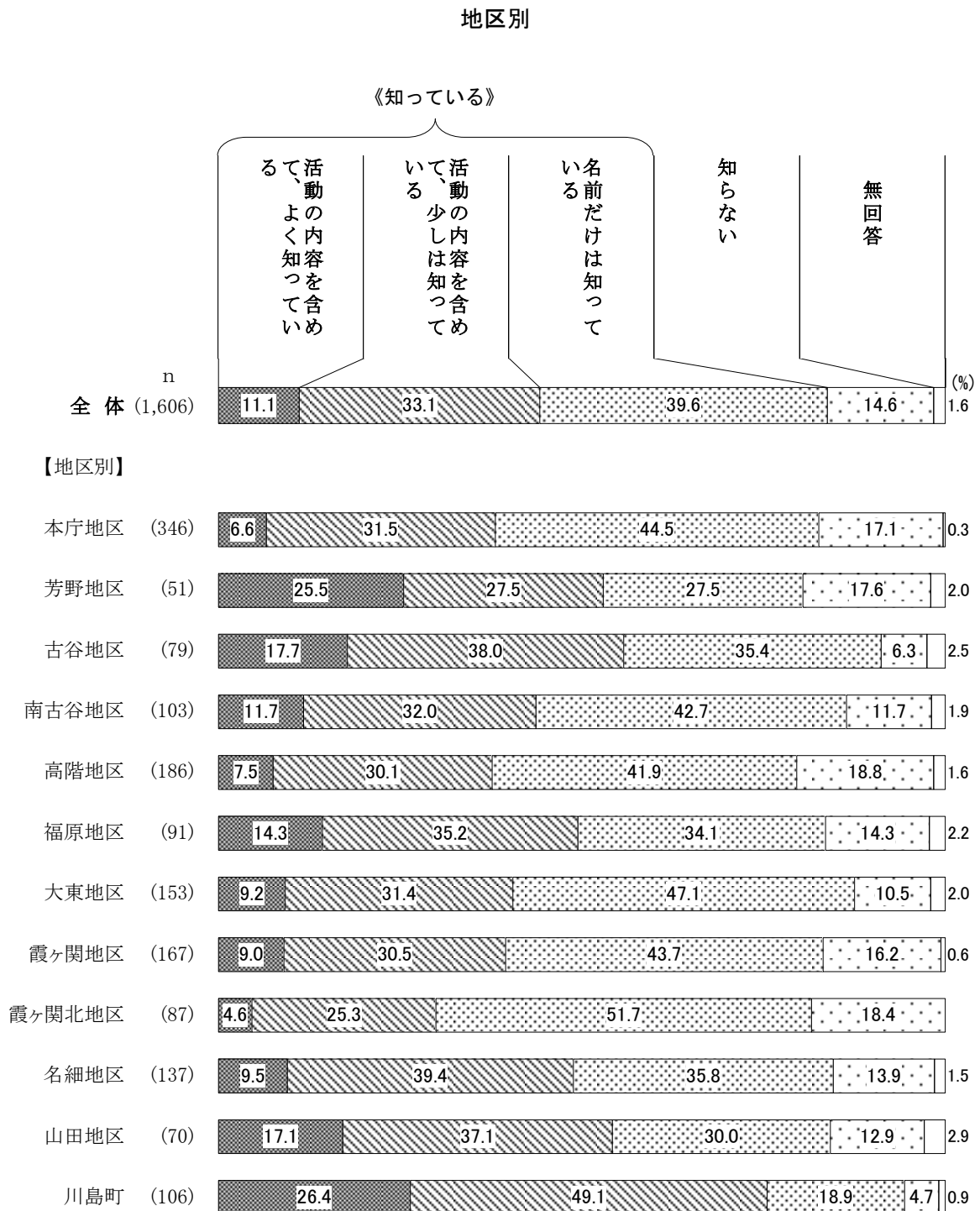
性別にみると、《知っている》は男性で88.0%、女性で81.7%といずれも8割台を占めている。

年代別にみると、「活動の内容を含めて、よく知っている」は40歳代以上で1割台となっている。《知っている》では、20～29歳では74.1%にとどまるが、30歳代以上は8割以上となり、特に40～49歳では92.3%と多くなっている。

性別／年代別

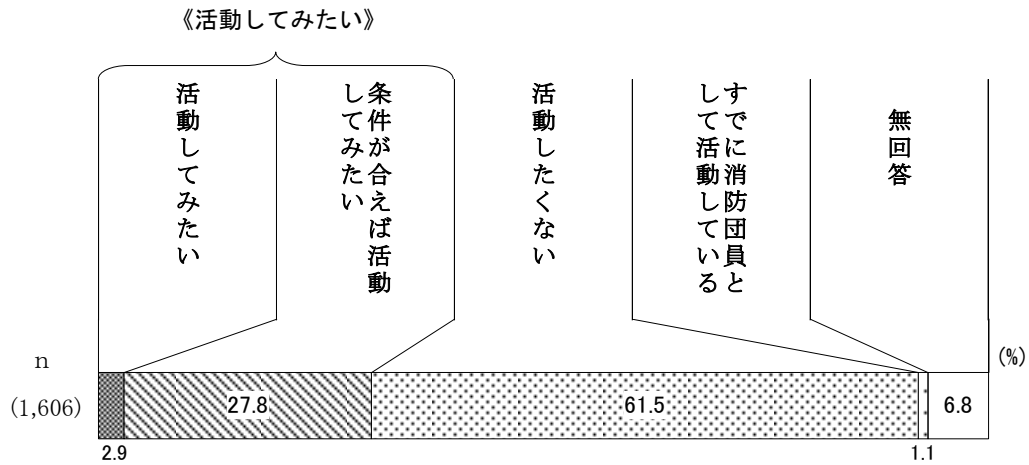


地区別にみると、「活動の内容を含めて、よく知っている」は芳野地区（25.5%）と川島町（26.4%）で2割台となっている。《知っている》はほぼすべての地区で8割以上となっており、特に古谷地区（91.1%）と川島町（94.4%）では9割台を占めている。



### (9) 消防団活動への参加意向

問17 あなたは、消防団に参加して消防団員として活動してみたいですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

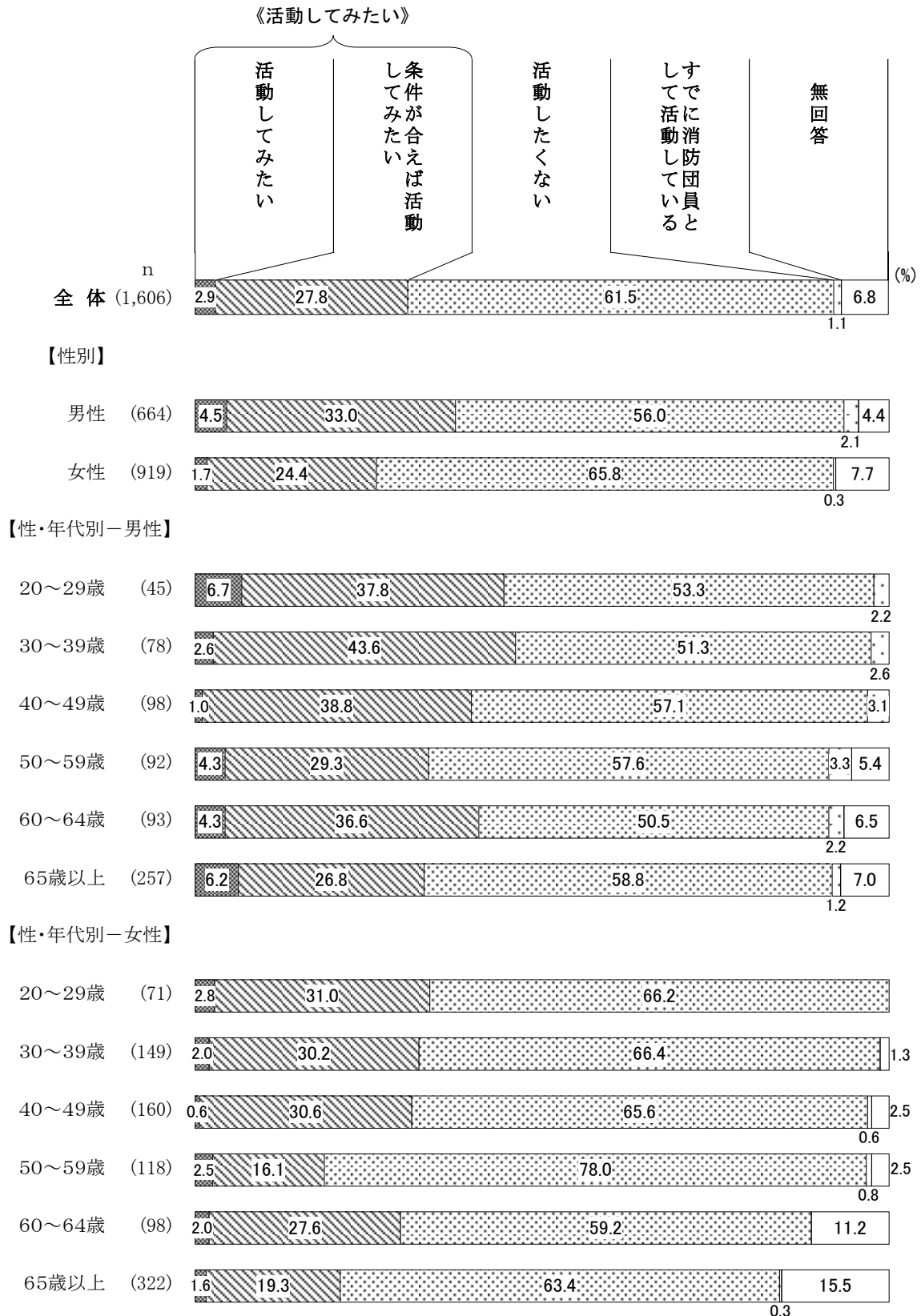


消防団に参加して消防団員として活動してみたいかどうかでは、「活動してみたい」は2.9%にとどまっている。「条件が合えば活動してみたい」は27.8%となり、両者を合わせた《活動してみたい》は30.7%となっている。一方、「活動したくない」は61.5%となっている。

性別にみると、参加意向は男性（37.5%）の方が多く、「活動したくない」は女性（65.8%）が男性（56.0%）を9.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「活動してみたい」は男性20～29歳、30～39歳及び男性60～64歳で4割台と多くなっている。

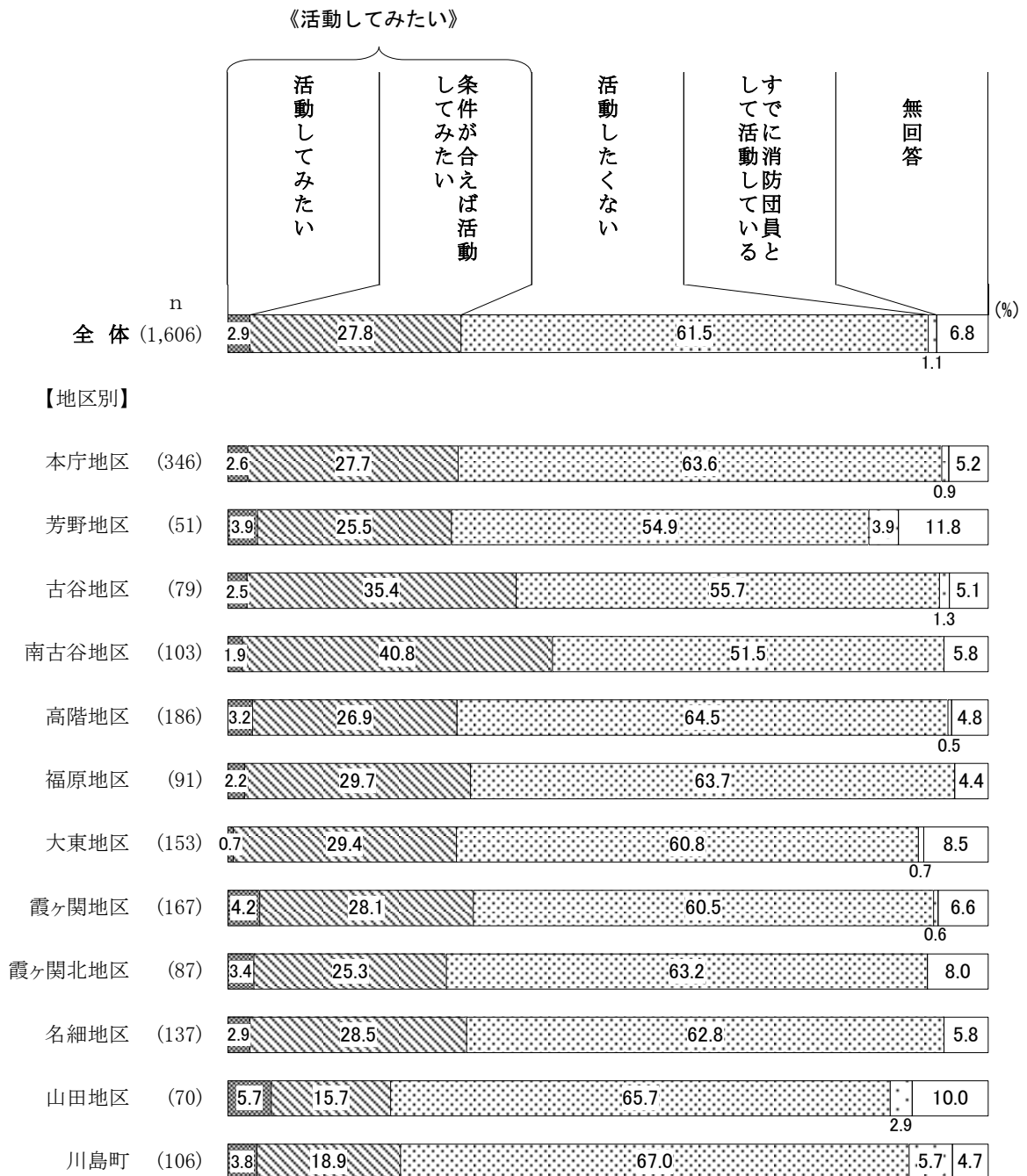
### 性別／性・年代別



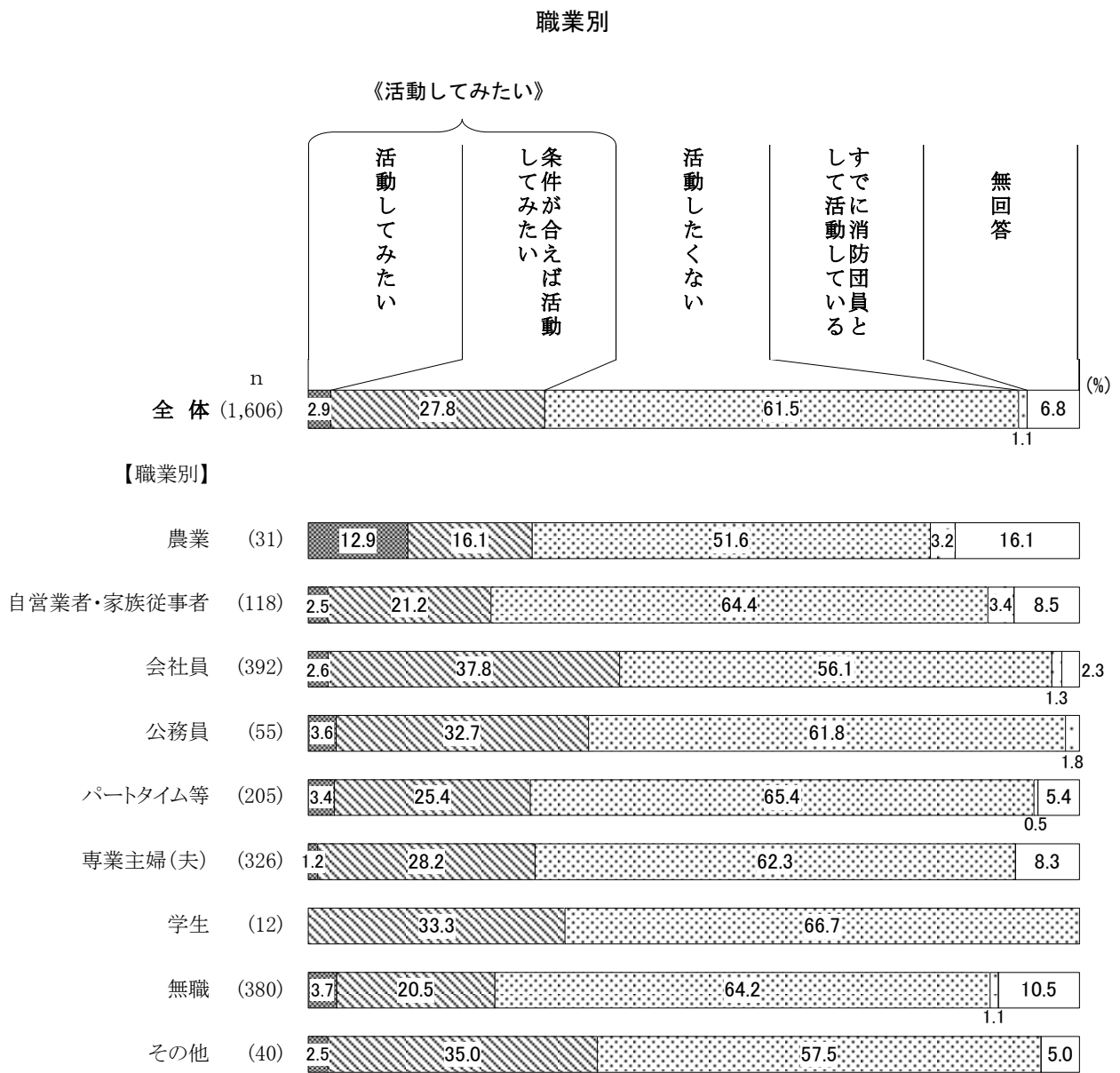


地区別にみると、《活動してみたい》は南古谷地区で42.7%と多く、本庁地区、古谷地区、高階地区、福原地区、大東地区、霞ヶ関地区、名細地区で3割台となっている。

### 地区別



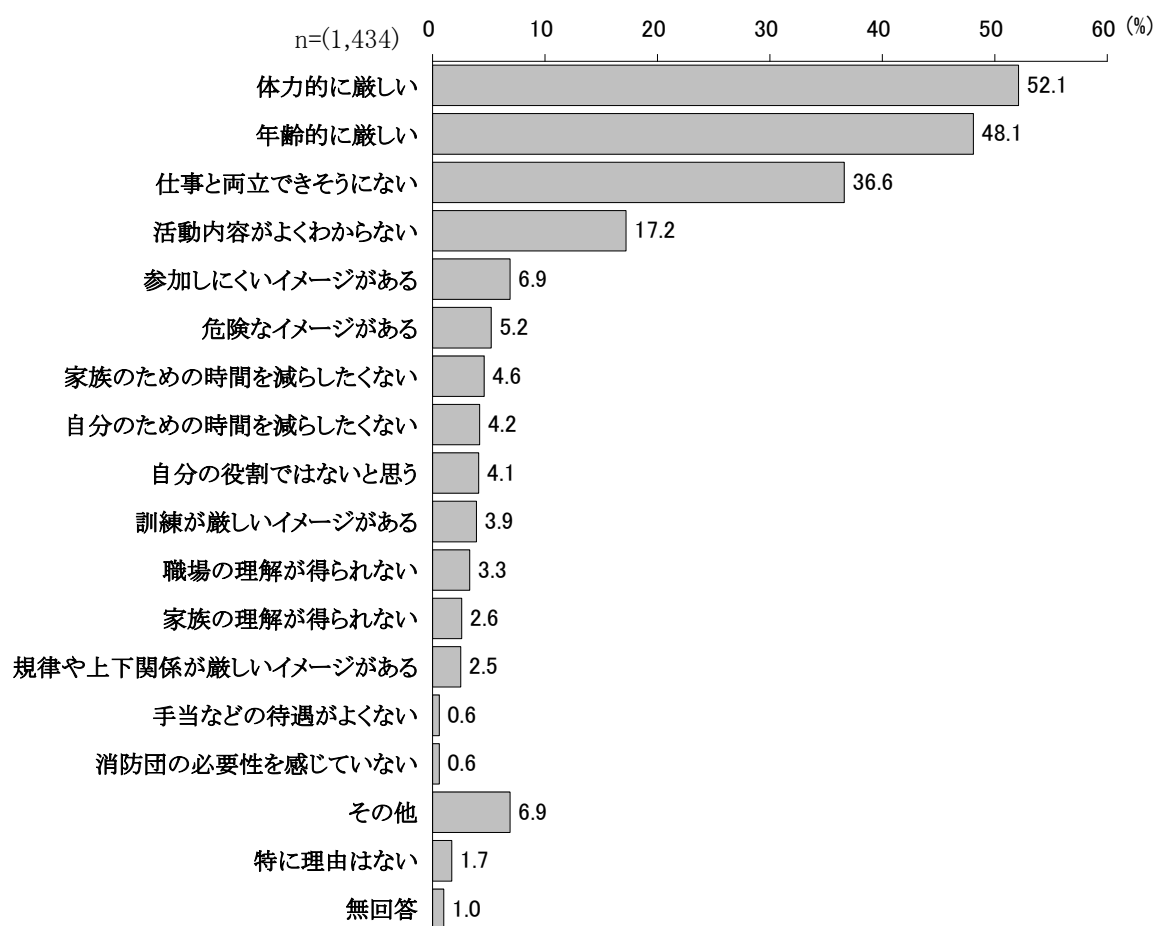
職業別にみると、「活動してみたい」は農業で12.9%と比較的多くなっている。《活動してみたい》では会社員で40.4%となっており、公務員でも36.3%、農業で29.0%となっている。



## (10) 活動に積極的でない理由

【問17で「条件が合えば活動してみたい」または「活動したくない」と答えた方におたずねします。】

問17-1 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内で選んでください。  
(○は3つまで)

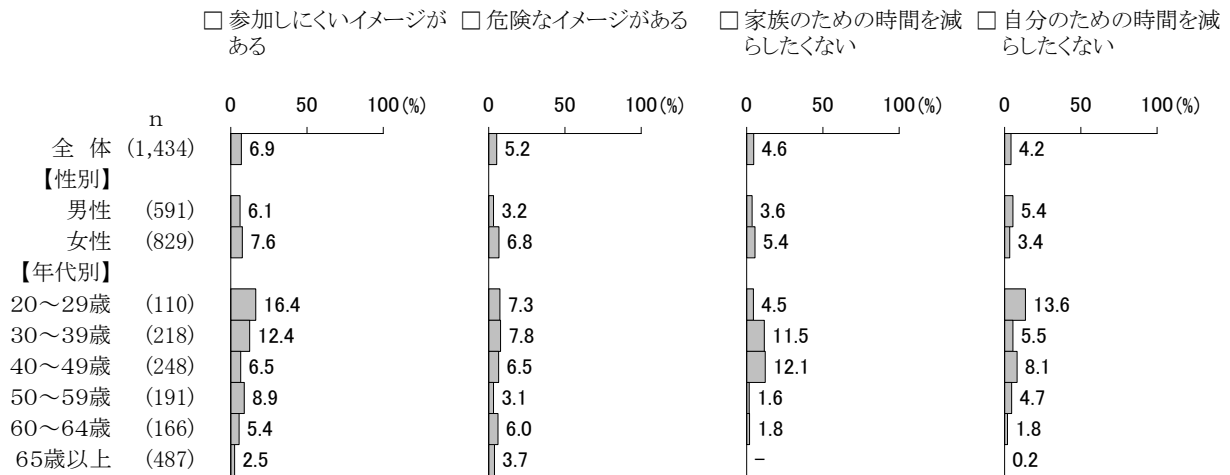
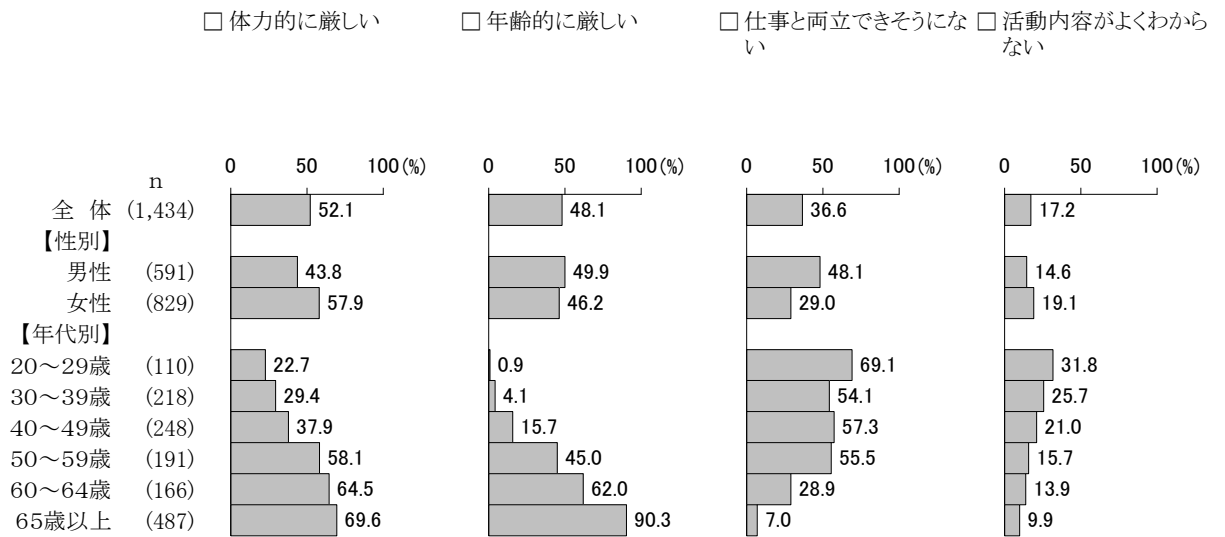


条件が合えば活動してみたい、あるいは活動したくない理由としては、「体力的に厳しい」(52.1%)、「年齢的に厳しい」(48.1%)が5割前後と多く、これに「仕事と両立できそうにない」(36.6%)が続いている。

性別にみると、男性では「仕事と両立できそうにない」（男性：48.1%、女性：29.0%）が、女性では「体力的に厳しい」（男性：43.8%、女性：57.9%）がより多くあげられている。

年代別にみると、「体力的に厳しい」や「年齢的に厳しい」は年代が上がるにつれて多くなっている。「仕事と両立できそうにない」や「活動内容がよくわからない」は若年層ほど多い傾向がみられる。

### 性別／年代別（上位8項目）



職業別にみると、「体力的に厳しい」と「年齢的に厳しい」は農業と自営業者・家族従事者、パートタイム等と専業主婦（夫）、無職で多く、「仕事と両立できそうにない」は会社員、公務員や学生で多くあげられている。なお、「活動内容がよくわからない」は学生（33.3%）と会社員（23.6%）で比較的多くなっている。

### 職業別（上位8項目）

